

# 成城小学校における学校劇の研究

—音楽的側面に着目して—

升 田 真依子

(本講座大学院博士課程前期在学)

## Music in School Dramas at Seijo Elementary School

Maiko MASUDA

### Abstract

School dramas in Japan originated with Kuniyoshi Obara in the Taisho period, and they were performed at Seijo Elementary School. This study examines the musical developments related to drama at that elementary school from the later years of the Taisho period to the early Showa era. From an examination of school records, it is evident that many songs were used in Seijo Elementary School's drama productions. Most of those songs were original compositions by music specialists, such as Tadashi Yanada and Toshiaki Okamoto, who taught music at the school. Some established songs were also used, for example, *Jinjo Shogaku Shoka* and *Doyo*. An analysis of the music reveals that the newly written songs were considered appropriate range and tonality because musical specialists composed. Those new songs also employed the Japanese musical scale. However, it was the playwrights who decided where to use music in their plays, and they wrote the lyrics. Thus, the composers were unable to create their works just as they wanted. The use of music in a play depends upon the style of the drama. Some dramas use songs in which the lyrics express the thoughts and feelings of the characters in the play. The style of the dramas presented at Seijo Elementary School changed with time.

### 1. はじめに

学校劇という名が最初に登場したのは大正時代であり、その名付け親は小原國芳である。小原は大正 8 年に主事として成城小学校に赴任し、大正 10 年に初めて成城小学校で学校劇が行われ、以降、斎田喬や内海繁太郎らを中心に発展する。大正 13 年に「学校劇禁止令」が出されたことをきっかけに、公立の学校では学校劇が下火になったが、直接文部省の指導下になかった私立の成城小学校では、引き続き学校劇が行われ、これまでの発表中心主義の学校劇から、指導の過程尊重へと方向転換した。大正 14 年に小学校の一部が移転した際、移転先では設備が整っていなかったため、学校劇の上演機会はほぼなかったが、昭和 3 年に併合してからは環境も整い、学校劇が盛んになっていった。

升田 (2014) によると、成城小学校における学校劇は、音楽的要素を含んでいるものが多く、学校劇創始期である大正時代は、梁田貞、永井潔らによって作曲されていた。昭和に入ってから、上野耐之や下総皖一、岡本敏明が作曲しており、文部省唱歌や童謡などを手がけている作曲家が学校劇に携わっていた。そこで本発表では、成城小学校の学校劇における音楽の取り扱い方に注目する。成城小学校の教育雑誌、『教育問題研究』や『教育問題研究・全人』には、少ないながらも、いくつかの演目の楽譜が掲載されている。脚本に加え、それらの楽譜をもとに、成城小学校の学校劇における歌の取り入れ方や音楽的要素を明らかにすることを目的とする。

## 2. 学校劇の分析

『教育問題研究』と『教育問題研究・全人』に掲載されている脚本を概観すると、「学校劇禁止令」が出された大正13年8月以降は、歌が含まれる劇は一時的にみられなくなったが、それ以外の期間では多くの学校劇で歌が含まれていることがわかる。今回は、なかでも楽譜が掲載されている学校劇に焦点をあてて分析する。

### 2-1. 「首途の前」<sup>1)</sup>

【製作者】脚本：照井猪一郎，作曲：吉原規（大正12年3月掲載）

【対象学年】尋常3，4，5年生位

【登場人物】ジョン治（犬），モン吉（猿），ケン一（雉），たまチャン（猫），ヒン作（馬）

【劇の概要】桃太郎が鬼ヶ島へ出発する一時間前を描いたオリジナルストーリー。

【音楽的要素】

表1 「首途の前」の楽曲分析

	拍子	調性	形式	最低音	最高音	形態	備考
前奏曲	2/2	G dur					
1	2/2	G dur	その他 (44 小節)	1 点ニ	2 点ホ	合唱, 独唱 (犬, 猿, 雉)	前奏 2 小節, 合唱部分は 3 と同じ旋律
2	4/4	g moll	一部形式 (8 小節)	1 点ニ	2 点変ホ	独唱 (犬)	
3	2/2	G dur	その他 (24 小節)	1 点ニ	2 点ホ	独唱 (馬)	
4	4/4	g moll	一部形式 (8 小節)	1 点ニ	2 点変ホ	独唱 (馬)	2 と同じ旋律
5	2/2	G dur	その他 (24 小節)	1 点ニ	2 点ホ	独唱 (猫)	3 と同じ旋律
6	4/4	g moll	一部形式 (8 小節)	1 点ニ	2 点変ホ	独唱 (馬)	2 と同じ旋律
7	2/2	G dur	その他 (20 小節)	1 点ニ	2 点ホ	独唱 (猫)	前奏 2 小節, 後奏 1 小節
8	2/2	G dur	その他 (28 小節)	1 点ニ	2 点ホ	独唱, 合唱 (猫, 馬, 犬, 猿, 雉)	3 の旋律で独唱し 最後の合唱は 1 の最後 4 小節

劇のなかには、それぞれの動物による独唱が組み込まれており、台詞が歌になっている部分が多くみられる。8曲の歌が含まれており、歌詞を付け変えて同じ旋律を用いているものも多く、主に3つの旋律からできている。負の感情では短調を使っているが、同じ旋律を用いるため、感情と調性が一致していないところや、無理やり歌詞を当てはめたところがみられる。前奏曲があるのが特徴である。

### 2-2. 「玩具のお國」<sup>2)</sup>

【製作者】脚本：照井猪一郎，作曲：梁田貞（大正12年5月掲載）

【登場人物】

玩具の王様，赤帽さん，青服さん，長靴さん，断髪さん，笑窪さん，ほくろさん，毬子さん，キューピーさん，メリーさん，郵便屋の兎ちゃん，飛行機さん，カナリヤさん，お医者さんのダック博士，兄：太郎さん，姉：恵美子さん，弟：次郎ちゃん

【劇の概要】弟が壊したおもちゃが動き出し，おもちゃの医者に直してもらおうオリジナルストーリー。

【音楽的要素】

合唱はおもちゃの国を紹介する歌と「手毬歌」の2曲，独唱は声楽家のカナリヤとキューピーの2曲の計4曲の歌が含まれている。掲載されていた「手毬歌」では，陰音階を基本とした旋律で，手毬歌らしく日本的な歌となっている。歌詞がやや難解である。

表2 「玩具のお國」の楽曲分析

	拍子	調性	形式	最低音	最高音	形態
手毬歌	2/4	陰音階 (転調含む)	二部形式 (48 小節)	1 点ハ	2 点変ホ	合唱

### 2-3. 「こぶとり」<sup>3)</sup>

【製作者】脚本：照井猪一郎，作曲：加藤げん（大正13年3月掲載）

【対象学年】尋常小学1年

【登場人物】赤鬼の大將，青鬼，黒鬼，与市じいさん，猫八じいさん

【劇の概要】国語の綴り方に使用した「こぶとり」を劇化したもの。

【音楽的要素】

表3 「こぶとり」の楽曲分析

	拍子	調性	形式	最低音	最高音	リズム	形態	備考
1	2/4	D dur (七抜き)	三部形式 (24小節)	1点ニ	2点ニ	ピョンコリズム	合唱	
2	2/4	F dur (四七抜き)	二部形式 (16小節)	1点ハ	2点ニ		独唱 (青鬼)	
3	2/4	c moll	二部形式 (16小節)	1点ハ	2点ニ		合唱 (鬼たち)	
4	2/4	F dur (七抜き)	三部形式 (32小節)	1点ハ	2点ニ		合唱	
5	3/4	C dur (七抜き)	三部形式 (24小節)	1点ハ	2点ハ		合唱	
6	2/4	C dur (四七抜き)	二部形式 (32小節)	1点ハ	2点ハ	ピョンコ止め	合唱 (鬼)	
7	3/4	C dur (七抜き)	三部形式 (24小節)	1点ハ	2点ハ		合唱	5とほぼ同じ旋律

合唱6曲と独唱1曲の計7曲が含まれている。5と7は、それぞれ与市じいさんと猫八じいさんのことをうたった歌であり、ほぼ同じ旋律で対比の効果を出している。調性やリズムからも、全体的に唱歌調でまとめられているといえる。形式は二部形式と三部形式で整っている。尋常小学1年を対象に作られており、声域も無理のないよう配慮がみられる。

### 2-4. 「桃太郎出征」<sup>4)</sup>

【製作者】脚本：内海繁太郎，作曲：下総皖一（昭和2年7月掲載）

【登場人物】桃太郎，犬，猿，雉，村人数人

【劇の概要】桃太郎が出征し，犬，猿，雉をお供にする場面を描いたオリジナルストーリー。

【音楽的要素】

紙面の都合上，最初の村人の合唱しか楽譜が掲載されていないが，脚本から，全11か所で歌が使われており，前半は歌によって劇が進行していることがわかる。それぞれの役には独唱があり，影歌の合唱も使われている。台詞が歌になっていたり，合唱でストーリーの内容を補足していたりと，全体的に歌の果たす役割が大きい学校劇となっている。歌詞が同様のものが見られることから，同じような旋律が使われていると考えられる。

表4 第一. 村人の合唱の楽曲分析

	拍子	調性	形式	最低音	最高音	形態	備考
1	2/2	C dur (七抜き)	三部形式 (24小節)	1点ハ	2点ニ	合唱 (村人)	前奏4小節，後奏2小節

### 2-5. 「春」<sup>5)</sup>

【製作者】脚本：畑東一郎，作曲：不明（昭和6年5月掲載）

【対象学年】尋常小学1年

【登場人物】先生，静子，正子，進，春子，美智子，正一，生也，隣太郎，新子，伸一郎

【劇の概要】春の遠足の一場面を描いたオリジナルストーリー。

【音楽的要素】

表5 「春」の楽曲分析

	拍子	調性	形式	最低音	最高音	形態	備考
春が来た	4/4	C dur	一部形式 (8小節×3番)	1点ハ	2点ホ	合唱	『尋常小学唱歌第三学年用』高野辰之作詞，岡野貞一作曲
かくれんぼ	2/4 4/4	D dur (四七抜き)	一部形式 (14小節×2番) 小結尾部 (2小節)	1点ニ	2点ホ	合唱	
おにごっこ	2/4	G dur	二部形式 (16小節)			踊りの曲	歌詞なし
春の歌	4/4	C dur (四七抜き)	二部形式 (16小節)	1点ハ	2点ホ	合唱	野口雨情作詞，草川信作曲

『尋常小学唱歌第三学年用』高野辰之作詞，岡野貞一作曲の「春が来た」と，野口雨情作詞，草川信作曲の「春の歌」が使われている。春に合わせた既成曲2曲に加え，「かくれんぼ」と「おにごっこ」が新作されている。「かくれんぼ」は遊び歌として劇中で使われており，「おにごっこ」は歌詞のない遊びのための音楽である。劇自体は低学年らしい仕上がりになっているが，音楽としては第三学年用の尋常小学唱歌が入っており，音域も2点ホまで出てくるため，やや難しい。畑は，「春」に関して児童生活の如実な表現であり，児童と共に舞台の上で作り上げたスケッチ劇であるとしている。ストーリー性はなく，日常の遊びの場面を切り取った形で，音楽も遊び歌が使われているのが特徴である。

## 2-6. 「まはり燈籠」—低学年用の影絵芝居—<sup>6)</sup>

【製作者】脚本：斎田喬，作曲：岡本敏明（昭和6年7月掲載）

【登場人物】兵隊，胡蝶，兎，狐，鮎，家来の魚，花咲翁

【影絵芝居の流れ】

合唱団の歌に合わせて，燈籠の後ろで次々に影絵が駆けっくら（かけっこ）をし，歌が終わると対話が入る。まわり燈籠が開いて音楽に合わせてみんなが出てきて，皆さんおやすみなさいと言って幕が閉じる。

【音楽的要素】

表6 「廻り燈籠」の歌詞

1.まはり燈籠は駆けっくら 夜がふけても駆けっくら
2.まはり燈籠は駆けっくら みんなそろって駆けっくら
3.おもちゃの兵隊元気よく 鉄砲かついで駆けっくら
4.可愛い胡蝶ははねひろげ しずかにしずかに駆けっくら
5.あわて床屋の兎さん 耳をふりふり駆けっくら
6.気だてのやさしい花咲翁 お花をかついで駆けっくら
7.頭でっかち鮎入道 家来をつれて駆けっくら
8.おかごをかついだ狐さん よめいり行列駆けっくら
9.まはり燈籠の駆けっくら 夜がふけても駆けっくら

間奏を挟んで同じ旋律を繰り返し，9番まで歌う。廻り燈籠の影絵芝居ということで，ストーリー性はなく，様々な登場人物が出てくる様子を，歌で表現している。影絵を動かす児童は歌はず，合唱団が歌う。低学年にも無理のない声域で，簡単な旋律の繰り返しであり，歌いやすい。

表7 「廻り燈籠」の楽曲分析

	拍子	調性	形式	最低音	最高音	形態	備考
廻り燈籠	2/4	G dur (七抜き)	一部形式 (8小節×9番)	1点ニ	1点ロ	合唱 (合唱団)	間奏 (8小節)

## 2-7. 「まはうのおもちゃばこ」—尋一の唱歌劇—<sup>7)</sup>

【製作者】脚本：畑東一郎，作曲：文部省唱歌（昭和6年12月掲載）

【登場人物】

太郎，信二，正一，安子，菊子，貞子，鳩，おきやがりこぼし，お人形，かたつむり，池の鯉，兎，犬，

【あらすじ】太郎が発明した歌うと中のおもちゃが踊り出してくるおもちゃばこを見に友達がやってくる。

【音楽的要素】

表8 「まはうのおもちゃばこ」の楽曲分析

	拍子	調性	形式	最低音	最高音	形態
おきやがりこぼし	2/4	F dur (四七抜き)	二部形式 (16小節×2番)	1点ヘ	2点ニ	合唱
人形	4/4	F dur (四七抜き)	二部形式 (16小節×2番)	1点ヘ	2点ニ	合唱
かたつむり	2/4	D dur	二部形式 (16小節×2番)	1点ニ	2点ニ	合唱
鳩	2/4	F dur (四七抜き)	一部形式 (12小節×2番)	1点ヘ	2点ニ	合唱
池の鯉	2/4	G dur (四七抜き)	一部形式 (12小節×2番)	1点ニ	2点ニ	合唱
兎	2/4	D dur	一部形式 (16小節×2番)	1点ニ	2点ニ	合唱
犬	4/4	D dur (四七抜き)	一部形式 (12小節×2番)	1点ニ	2点ニ	合唱

全て『尋常小学唱歌第一学年用』に掲載されている唱歌をそのまま用いており，計7曲使われている。登場人物を呼び出すために唱歌を使用している。児童にとっては馴染みのある曲であるため，新たに歌の練習をする必要はなく，劇に集中しやすい。

## 2-8. 「案山子の言葉」—尋二の唱歌劇—<sup>8)</sup>

【製作者】脚本：畑東一郎，作曲：文部省唱歌（昭和6年12月掲載）

【登場人物】こおろぎ大勢，案山子，蛇，蛙，男の子3人

【あらすじ】冬がきて死ぬのを恐れているこおろぎを案山子が諭すオリジナルストーリー。

【音楽的要素】

表9 「案山子の言葉」の楽曲分析

	拍子	調性	形式	最低音	最高音	形態
紅葉	4/4	F dur	二部形式（16小節×2番）	1点ハ	2点ニ	合唱
案山子	4/4	F dur	二部形式（16小節×2番）	1点ハ	2点ニ	合唱（男の子）
雨	4/4	D dur	二部形式（16小節×2番）	1点ニ	2点ニ	合唱

全て『尋常小学唱歌第二学年用』に掲載されている唱歌をそのまま用いており，計3曲が使われている。「紅葉」は情景の象徴として歌い，「案山子」と「雨」はストーリーのなかで登場人物が歌うよう組み込まれている。『尋常小学唱歌第一学年用』に掲載されている唱歌は，動物や人物が題材のものが多くにに対し，『尋常小学唱歌第二学年用』では自然が題材の唱歌が増えてくる。このため，「まはうのおもちやばこ」とは違い，「案山子の言葉」では情景を歌った唱歌が使われており，唱歌の取り入れ方も様々である。

## 2-9. 「蛍」<sup>9)</sup>

【製作者】脚本：畑東一郎，作曲：岡本敏明（昭和7年7月掲載）

【登場人物】蛍一，二，三，四，五，六，病気の蛍，蛍がりの子供達（声のみ）

【あらすじ】病気の蛍がきれいな小川の水で元気になる。

【音楽的要素】

全部で4曲の歌が使われており，全て新たに作曲されたものである。子供が蛍を呼ぶ曲はわらべうた調である。3と4も四七抜き音階が使われており，蛍らしく日本的な雰囲気曲でまとめられている。2，3，4は4番まで歌詞があり，有節歌曲の形をとっている。

表10 「蛍」の楽曲分析

	拍子	調性	形式	最低音	最高音	形態	備考
1	2/4	わらべうた調	一部形式（6小節×2番）	1点ヘ	1点イ	合唱（子供達）	
2	2/4	e moll	二部形式（16小節×4番）	ロ	2点ホ	合唱（蛍達）	
3	4/4	G dur（四七抜き）	一部形式（12小節×4番）	1点ニ	1点ロ	合唱（蛍達）	
4	2/4	D dur（四七抜き）	一部形式（12小節×4番）	1点ハ	2点ニ	合唱（蛍達）	伴奏付き（前奏4小節）

## 2-10. 「漂鳥」<sup>10)</sup>

【製作者】脚本：佐藤加壽輔，作曲：岡本敏明（昭和8年2月掲載）

【登場人物】鳥一，鳥二，鳥三，鳥四，鳥五，鳥六，鳥七（盲目）

【あらすじ】渡り鳥の旅立ち前を描いたオリジナルストーリー。

【音楽的要素】

全部で4曲の歌が使われている。吉丸一昌作詞，中田章作曲の「早春賦」以外は，新たに作曲されたものである。「漂鳥の唄」は，歌としての完成度が高く，伴奏も芸術的で，この劇の主題歌のような役割を果たしている。歌詞が文語であるのが特徴で，「早春賦」と同様に6/8拍子の二部形式でできている。

表11 「漂鳥」の楽曲分析

	拍子	調性	形式	最低音	最高音	形態	備考
蜜柑山			（歌詞）ここは紀の国蜜柑山 右も左も蜜柑山 白帆が川を下ります				
早春賦	6/8	Es dur	二部形式	変ロ	2点変ホ	合唱	吉丸一昌作詞，中田章作曲
雁			（歌詞）雁雁渡れ かぎになって渡れ 竿になって渡れ 仲よく渡れ				
漂鳥の唄	6/8	d moll	二部形式（16小節×3番）	1点嬰ハ	2点ニ	合唱	前奏，後奏4小節ずつ

### 3. 学校劇における音楽の取り扱い方

『教育問題研究・全人』第81号には、昭和5年度に成城小学校に加わり<sup>11)</sup>、学校劇の作曲に携わっていた岡本敏明の執筆による「作曲者として学校劇作者に」が掲載されている。岡本は、学校劇において音楽を取り入れる方法には理想的なものが少ないとし、作曲者として脚本家へ意見を述べている。岡本の意見を踏まえつつ、第2章で分析した学校劇における音楽的傾向をみていく。

#### 3-1. 学校劇における使用曲

岡本は、劇に音楽を用いる方法として、多くの人に好まれている既成の曲を使う場合と、専門家に新たに作曲してもらった場合とを挙げており、その劇や歌にふさわしい曲を新たに作曲してもらったことを推奨している。

今回分析した学校劇は、大半が新曲のみでできており、「春」と「漂鳥」は新曲に既成曲が加えられ、「まはうのおもちゃばこ」と「案山子の言葉」は既成曲のみで作られていた。既成曲では、童謡や唱歌などがそのままの歌詞で用いられており、低学年を対象としていることが多く、上演上の負担軽減につながるという。「まはうのおもちゃばこ」と「案山子の言葉」は、それぞれ一年と二年の『尋常小学唱歌』を使用しており、唱歌科との関連が密接であるといえる。

#### 3-2. 脚本における歌の取り入れ方

岡本は歌詞について、学校劇ではオペラと違って会話部分で劇の内容がわかるため、叙事的なものを減らし、叙情的なものを多くすべきであるとしている。歌の数については、作者が唱歌劇風に作りたい場合を除いてあまり必要とせず、歌を効果的に生かすためにも、劇中のどこに配置するかが大切であるとしている。歌詞の長さについては、長過ぎると歌う側も観衆も飽きるが、一節一節のメロディーを変化させたのでは歌唱者の負担になるため、歌詞は二節か三節が適当であり、自由詩風なものには作曲しにくいいため、唱歌調（韻文）によるものが無難であるとしている。

第2章で分析した学校劇では、台詞が歌になっているもの、歌がストーリーの内容を補足しているもの、歌で情景を描写しているもの、ストーリー上登場人物が歌うよう設定されているもの（踊りの場面も含む）があった。台詞が歌になっているものは、岡本のいう唱歌劇風なものにあたり、歌がストーリーの内容を補足しているものは、岡本のいう叙事的歌詞にあたる。叙事的歌詞は唱歌劇風なものに多くみられた。曲数に関しては、初期の唱歌劇風の作品では必然的に多くなっているが、昭和に入り次第に少なくなる傾向にある。歌詞の長さは、「まはり燈籠」の9番が最長で、「蛍」では4番までの曲が3曲ある。初期の作品は通作歌曲の形で歌詞を付けているものが多くみられたが、時代が進むにつれ、有節歌曲の形をとるものが増えた。そのため、初期の作品では、1つの曲で40小節を超えるものもみられた。唱歌劇風なものは、自由詩風の歌詞があり、無理やり旋律をつけたためか、形式がとれないものが多くみられた。

劇の形態としては、特徴的なものとして、台詞が歌になっている唱歌劇風なもの、日常場面を描いたスケッチ劇、影絵芝居、『尋常小学唱歌』を用いた劇があった。便宜上、それ以外のものを音楽劇として表14にまとめた。学校劇としては、「学校劇禁止令」が出る大正13年8月までは唱歌劇風なものや、音楽劇が中心であったが、それ以降はスケッチ劇や影絵芝居など多様な劇がみられるようになった。

表 12 学校劇の歌の取り扱い

	掲載年	学年	劇の形態	使用曲数	自由詩風の歌詞あり
首途の前	大正 12 年 3 月	3,4,5 年位	唱歌劇風	9	○
玩具のお國	大正 12 年 5 月	全学年	音楽劇	4	○
こぶとり	大正 13 年 3 月	1 年	音楽劇	7	
桃太郎出征	昭和 2 年 7 月	不明	唱歌劇風	(11 か所)	○
春	昭和 6 年 5 月	1 年	スケッチ劇	4	
まはり燈籠	昭和 6 年 7 月	低学年	影絵芝居	1	
まはうのおもちゃばこ	昭和 6 年 12 月	1 年	尋常小学唱歌劇	7	
案山子の言葉	昭和 6 年 12 月	2 年	尋常小学唱歌劇	3	
蛍	昭和 7 年 7 月	不明	音楽劇	4	
漂鳥	昭和 8 年 2 月	不明	音楽劇	4	

### 3-3. 歌の音楽的要素

拍子では 2/4 が最も多く、2 拍子系や 4 拍子系が多くを占めている。3 拍子や 6 拍子は少なく、それぞれの演目に偏っている。1 演目あたり 1 種類か 2 種類の拍子でできており、統一感がみられる。調性では、長調の曲が圧倒的に多く、哀愁を漂わせる場面や、負の感情の歌詞の場合短調を用いていた。演目によって偏りがあったが、四七抜きや七抜き音階、陰音階など、日本の音階も多く使われていた。調号に関しては最大 3 つで無理のない範囲である。形式では、二部形式が一番多く、次いで一部形式が多い。唱歌劇風のものでは、形式をとりづらいものが多くみられた。音域では、『尋常小学唱歌』の学年別の音域と比較した際、「春」では学年の割に広い音域を使用していたが、全体的に無理のない音域で作られていた。年代による曲調の変化としては、大正時代は唱歌調の曲が多くみられたが、昭和に入ってから、旋律や伴奏が芸術的なものもみられるようになった。

表 13 拍子

	学年	2/2	2/4	3/4	4/4	6/8
首途の前	3,4,5 年位	6			3	
玩具のお國	全学年		1			
こぶとり	1 年		5	2		
桃太郎出征	不明	1				
春	1 年	2	2			
まはり燈籠	低学年		1			
まはうのおもちゃばこ	1 年		5		2	
案山子の言葉	2 年				3	
蛍	不明		3		1	
漂鳥	不明					2
計		9	17	2	9	2

表 14 調性

	学年	C:	G:	D:	F:	Es:	e:	d:	g:	c:	陰音階	わらべうた調	日本の音階の使用割合
首途の前	3,4,5 年位		6						3				0/9
玩具のお國	全学年									1			1/1
こぶとり	1 年	3		1	2					1			6/7
桃太郎出征	不明	1											1/1
春	1 年	2	1	1									2/4
まはり燈籠	低学年		1										1/1
まはうのおもちゃばこ	1 年		1	3	3								5/7
案山子の言葉	2 年			2	1								0/3
蛍	不明		1	1			1					1	3/4
漂鳥	不明					1		1					0/2
計		6	10	8	6	1	1	1	3	1	1	1	19/39

表 15 形式

	学年	一部形式	二部形式	三部形式	その他
首途の前	3,4,5 年位	3			5
玩具のお國	全学年		1		
こぶとり	1 年		3	4	
桃太郎出征	不明			1	
春	1 年	2	2		
まはり燈籠	低学年	1			
まはうの おもちゃばこ	1 年	4	3		
案山子の言葉	2 年		3		
蛍	不明	3	1		
漂鳥	不明		2		
計		13	15	5	5

表 16 音域

	学年	最低音	最高音
首途の前	3,4,5 年位	1 点ニ	2 点ホ
玩具のお國	全学年	1 点ハ	2 点変ホ
こぶとり	1 年	1 点ハ	2 点ニ
桃太郎出征	不明	1 点ハ	2 点ニ
春	1 年	1 点ハ	2 点ホ
まはり燈籠	低学年	1 点ニ	1 点ロ
まはうの おもちゃばこ	1 年	1 点ニ	2 点ニ
案山子の言葉	2 年	1 点ハ	2 点ニ
蛍	不明	ロ	2 点ホ
漂鳥	不明	変ロ	2 点変ホ

図 1 尋常小学唱歌の音域<sup>12)</sup>

#### 4. おわりに

本発表では、成城小学校で行われていた学校劇の音楽の取り扱い方に着目した。成城小学校では、脚本に合わせて新たに作曲した曲が多く、一部『尋常小学唱歌』や童謡などの既成曲を用いたものもみられた。「学校劇禁止令」が出たことから、指導の過程を重視するようになり、発表を意識した唱歌劇風ものは少なくなった。脚本に合わせて作曲された曲は、唱歌調のものから芸術性の高い日本歌曲のようなものまで様々で、音楽の専門家が作曲をしていたため、音域や調性にも配慮がみられた。しかし、脚本家の裁量で音楽の取り入れ方が決まっていたため、劇のスタイルや歌詞、歌の入る箇所制限があり、作曲家の思うように作曲できないこともあったと考えられる。

今回の研究で、成城小学校における学校劇の音楽的傾向としては、作曲家の意図よりも脚本家の意図のほうが強く反映されていることが明らかとなった。実際、劇の形態や学年によっても音楽の取り入れ方が異なっていた。そのため、脚本家の考える学校劇における音楽の効果を検討する必要あると考えられる。また、今回の研究では時期によって劇の形態や曲調の変化がみられた。劇の形態の変化としては、「学校劇禁止令」や成城小学校移転の影響が大きいと考えられる。曲調の変化としては、日本の唱歌教育の変遷や童謡運動とも関連があると考えられる。今回は、楽譜が掲載されている劇に焦点をあてたが、他にも音楽が含まれている劇は数多くみられた。劇の対象を広げ、今後は時代背景との関連も視野に入れさらに研究を進めていく。

#### 注

- 1) 照井猪一郎 (1923a) 「学校劇一首途の前」『教育問題研究』第 36 号, pp.107-128。
- 2) 照井猪一郎 (1923b) 「玩具のお國 (学校劇)」『教育問題研究』第 38 号, pp.106-125。
- 3) 照井猪一郎 (1923c) 「学校のおしばみ—こぶとり—」『教育問題研究』第 48 号, pp.103-120。
- 4) 内海繁太郎 (1927) 「桃太郎出征」『教育問題研究』第 88 号, pp.108-115。
- 5) 畑東一郎 (1931a) 「春」『教育問題研究・全人』第 59 号, pp.86-98。
- 6) 斎田喬 (1931) 「まはり燈籠」『教育問題研究・全人』第 61 号, pp.98-102。

- 7) 畑東一郎 (1931b) 「まほうのおもちやばこ」『教育問題研究・全人』第 66 号, pp.72-79。
- 8) 畑東一郎 (1931c) 「案山子の言葉」『教育問題研究・全人』第 66 号, pp.80-93。
- 9) 畑東一郎 (1932) 「蛭」『教育問題研究・全人』第 73 号, pp.113-123。
- 10) 佐藤加壽輔 (1933) 「漂鳥」『教育問題研究・全人』第 80 号, pp.99-115。
- 11) 斎田喬 (1932) 「成城学校劇の歴史」『教育問題研究・全人』第 70 号, p.238。
- 12) 山本壽 (1917) 「児童唱歌について」『学校教育』第 4 卷第 39 号, p.60。

## 引用・参考文献

- ・ 升田真依子 (2014) 「成城小学校における学校劇の研究：大正 13 年以前の学芸会に注目して」『教育学研究紀要』第 60 卷, 中国四国教育学会, pp.469-474。
- ・ 山本壽 (1917) 「児童唱歌について」『学校教育』第 4 卷第 39 号, 広島高等師範学校教育研究会, pp.58-64。

## 第一次史料

- ・ 畑東一郎 (1931a) 「春」『教育問題研究・全人』第 59 号, 成城学園, pp.86-98。
- ・ 畑東一郎 (1931b) 「まほうのおもちやばこ」『教育問題研究・全人』第 66 号, 成城学園, pp.72-79。
- ・ 畑東一郎 (1931c) 「案山子の言葉」『教育問題研究・全人』第 66 号, 成城学園, pp.80-93。
- ・ 畑東一郎 (1932) 「蛭」『教育問題研究・全人』第 73 号, 成城学園, pp.113-123。
- ・ 岡本敏明 (1933) 「作曲者として学校劇作者に」『教育問題研究・全人』第 81 号, 成城学園, pp.54-58。
- ・ 斎田喬 (1931) 「まはり燈籠」『教育問題研究・全人』第 61 号, 成城学園, pp.98-102。
- ・ 斎田喬 (1932) 「成城学校劇の歴史」『教育問題研究・全人』第 70 号, 成城学園, p.238。
- ・ 佐藤加壽輔 (1933) 「漂鳥」『教育問題研究・全人』第 80 号, 成城学園, pp.99-115。
- ・ 照井猪一郎 (1923a) 「学校劇一首途の前」『教育問題研究』第 36 号, 教育問題研究会, pp.107-128。
- ・ 照井猪一郎 (1923b) 「玩具のお國 (学校劇)」『教育問題研究』第 38 号, 教育問題研究会, pp.106-125。
- ・ 照井猪一郎 (1923c) 「学校のおしばみ一こぶとり」『教育問題研究』第 48 号, 教育問題研究会, pp.103-120。
- ・ 内海繁太郎 (1927) 「桃太郎出征」『教育問題研究』第 88 号, 教育問題研究会, pp.108-115。